

急性心筋梗塞患者の冠動脈診断造影の際に行う

「多軌道回転造影システム (XperSwing)」の有用性に関する検討

-診療録および放射線データベースを用いた「後ろ向き観察研究」-

当院の研究責任者	諏訪秀明（循環器内科医師）
当院および他院の研究分担者	足立太一（循環器内科医長） 加藤 徹（臨床研究部部長） 小谷和彦（自治医科大学地域医療学講座教授）
本研究の目的	多軌道回転造影システム (XperSwing) を用いると、通常の固定された角度で見落とされる可能性のある病変の発見や、病変長や病変の性質をより正確に評価できる可能性があります。続いて行うカテーテル治療（インターベンション）の際、治療のための機器選定や治療手技がスムーズに行え、治療時間や造影剤量や放射線被ばく量の軽減につながると仮定を立てこれを証明する目的です。
調査対象となる期間	2015年8月1日から2018年9月9日の診療情報を調査対象とします。
研究の方法 (使用する試料等)	対象となる患者さんは、調査対象期間中に栃木医療センター循環器内科に入院して急性心筋梗塞の診断でカテーテル検査及び治療を受けた患者さんです。電子カルテに記載された診療情報や看護師の記載、検査データや放射線照射記録などを見せていただき、情報収集させていただきます。
試料/情報の他研究機関への提供	ありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんが特定できる個人情報は削除して匿名化します。研究成果は、学会発表や論文発表を予定していますが、患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	諏訪秀明（循環器内科医師） 028-622-5241(代)
備考	